

(19)日本国特許庁 (JP)

(12) 登録実用新案公報 (U)

(11)実用新案登録番号

実用新案登録第3067648号
(U3067648)

(45)発行日 平成12年4月7日(2000.4.7)

(24)登録日 平成12年1月19日(2000.1.19)

(51)Int.Cl.⁷

F 24 C 15/36

識別記号

F I

F 24 C 15/36

K

F

評価書の請求 未請求 請求項の数3 OL (全13頁)

(21)出願番号 実願平11-7280

(22)出願日 平成11年9月24日(1999.9.24)

(73)実用新案権者 391001457

アイリスオーヤマ株式会社

宮城県仙台市青葉区五橋二丁目12番1号

(72)考案者 中島 敏

宮城県角田市小坂字土瓜1番地 アイリス
オーヤマ株式会社 角田工場内

(74)代理人 100088100

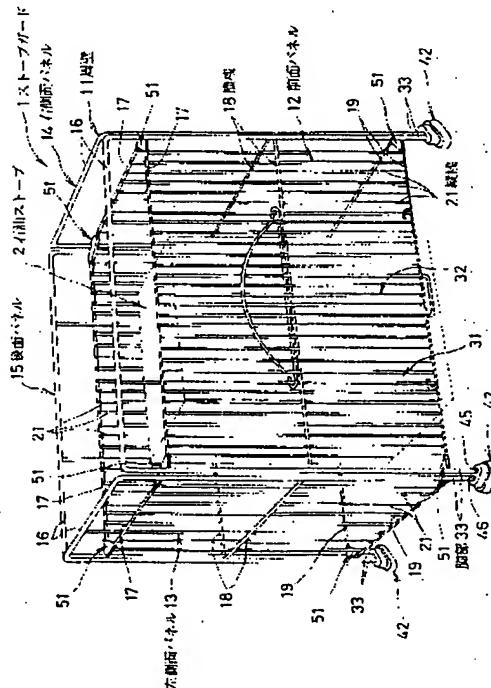
弁理士 三好 千明

(54)【考案の名称】ストーブガード

(57)【要約】

【課題】組み立てが容易なストーブガードを提供する。

【解決手段】周壁11を構成する各パネル12~15の外枠16内に横桟部17、18、19を延設し、上段の横桟部17と下段の横桟部19との間に縦桟部21を離間して並設する。外枠16の下端部を下段の横桟部19より下方へ延出して脚部33を形成し、前面パネル12と左側面パネル13との近接した両脚部33、33に脚キヤップ42を嵌着する。脚キヤップ42に有底の第1及び第2挿入孔45、46を形成し、前面パネル12及び左側面パネル13の側縁同士を近接して配置した状態で、前面パネル12の脚部33下端を第1挿入孔45へ挿入し、かつ左側面パネル13の脚部33下端を第2挿入孔46へ挿入する。前面パネル12と左側面パネル13とを、上下段の横桟部17、19にて連結部材51により連結固定する。



【実用新案登録請求の範囲】

【請求項1】ストーブを包囲する周壁が複数のパネル材により構成され、隣接したパネル材同士が連結部材により連結されてなるストーブガードにおいて、前記各パネル材の両側縁に、下方へ延出する脚部をそれぞれ形成するとともに、隣接するパネル材の側縁同士を近接して配置した状態で一方のパネル材の脚部下端が挿入される有底の第1挿入孔及び他方のパネル材の脚部下端が挿入される有底の第2挿入孔が形成された脚キャップを備えてなることを特徴とするストーブガード。

【請求項2】前記各パネル材を、横方向に延設された線状部材からなる複数の横桟部と、各横桟部に接合され、該横桟部の延在方向に離間して複数並設された線状部材からなる縦桟部とにより構成する一方、前記連結部材を、隣接した前記各パネル材の角部に配置された状態で両パネル材の横桟部を上下より挟持する台形板状に形成された一对の第1及び第2挟持板により構成し、一方の挟持板にネジが挿通される挿通穴を形成し、かつ他方の挟持板に前記挿通穴に挿通された前記ネジが螺入される螺入部を形成するとともに、台形板状に形成された両挟持板の斜辺部に、前記横桟部を位置決めする溝を形成したことを特徴とするストーブガード。

【請求項3】前記パネル材を、前記周壁の前面を形成する前面パネルと、該前面パネルの左側縁に接続される左側面パネルと、前記前面パネルの右側縁に接続される右側面パネルと、前記両側面パネルの後縁に接続される後面パネルとにより構成し、各パネルを、横方向に延設された線状部材からなる複数の横桟部と、各横桟部に接合され、該横桟部の延在方向に離間して複数並設された線状部材からなる縦桟部とにより構成する一方、前記連結部材を、隣接した前記各パネルの角部に配置された状態で両パネルの横桟部を上下より挟持する台形板状に形成された一对の第1及び第2挟持板により構成し、一方の挟持板にネジが挿通される挿通穴を形成し、かつ他方の挟持板に前記挿通穴に挿通された前記ネジが螺入される螺入部を形成するとともに、台形板状に形成された両挟持板の斜辺部に、前記横桟部を位置決めする溝を形成したことを特徴とするストーブガード。

【図面の簡単な説明】

【図1】本考案の一実施の形態を示す斜視図である。

【図2】図1の要部を示す拡大図である。

【図3】同実施の形態における脚キャップを示す斜視図である。

【図4】同実施の形態における脚キャップを示す正面図である。

【図5】同実施の形態における前面パネルと左側面パネルとの連結部分を示す要部の拡大図である。

【図6】同実施の形態における上部挟持板を示す平面図である。

【図7】同実施の形態における下部挟持板を示す平面図である。

【図8】図5のA-A断面に相当する図である。

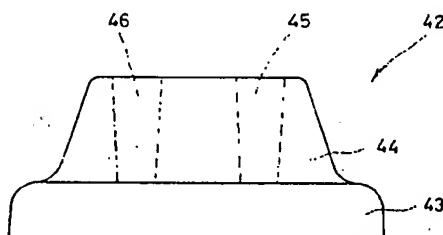
【図9】図8のB-B断面図である。

【図10】従来のストーブガードを示す斜視図である。

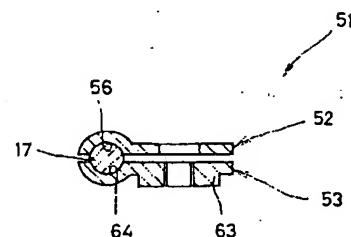
【符号の説明】

1	ストーブガード
2	石油ストーブ(ストーブ)
20	1 1 周壁
1 2	前面パネル(パネル材)
1 3	左側面パネル(パネル材)
1 4	右側面パネル(パネル材)
1 5	背面パネル(パネル材)
1 7	横桟
1 9	横桟
2 1	縦桟
3 3	脚部
4 2	脚キャップ
30	4 5 第1挿入孔
4 6	第2挿入孔
5 1	連結部材
5 2	上部挟持板(第1挟持板)
5 3	下部挟持板(第2挟持板)
5 5	挿通穴
5 6	第1上部溝
5 7	第2上部溝
6 1	螺入部
6 4	第1下部溝
40	6 5 第2下部溝

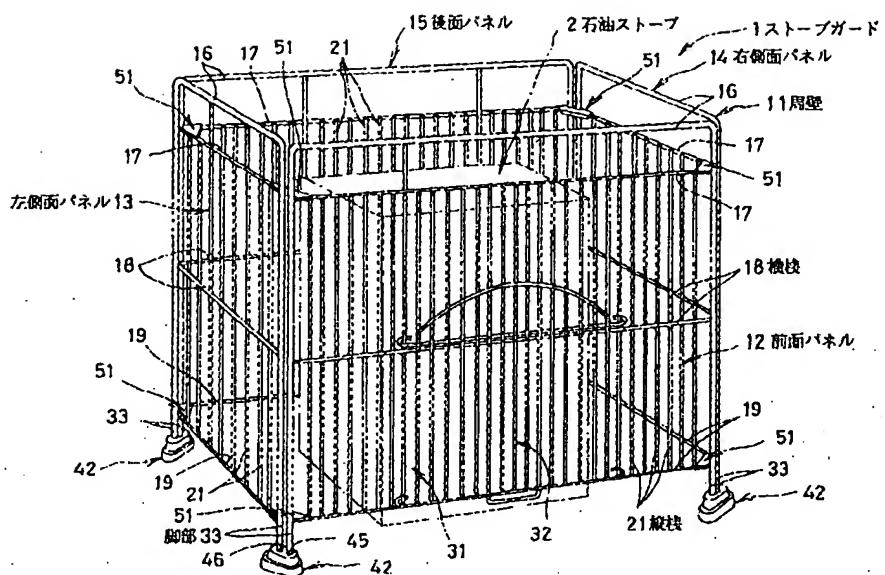
【図4】



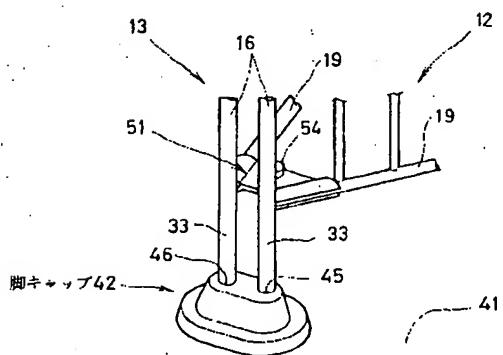
【図9】



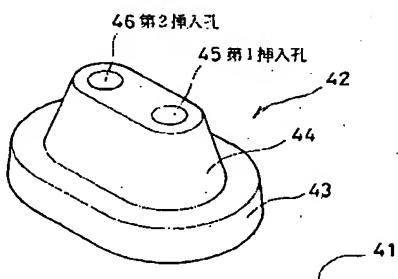
【図1】



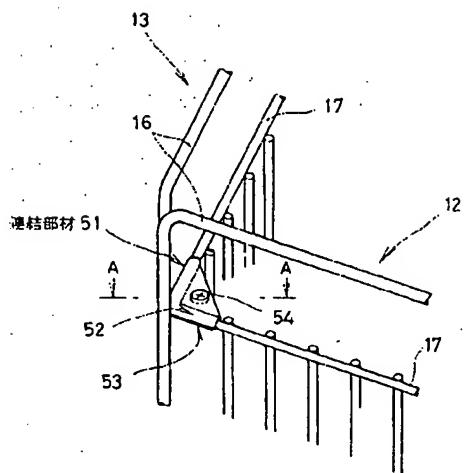
【図2】



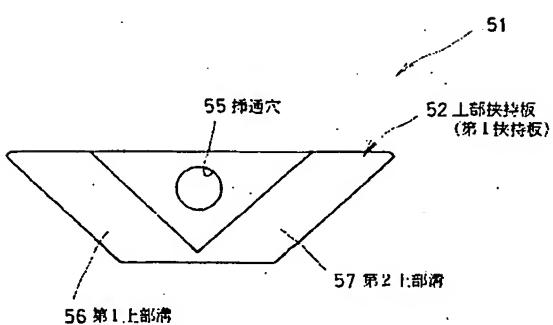
【図3】



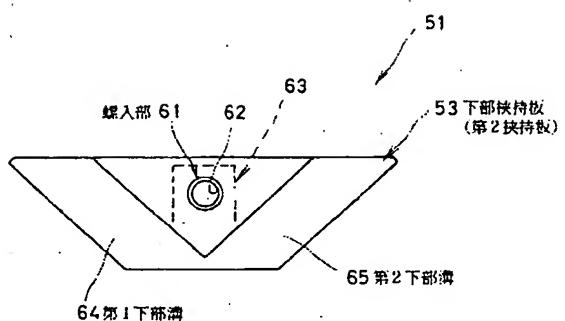
【図5】



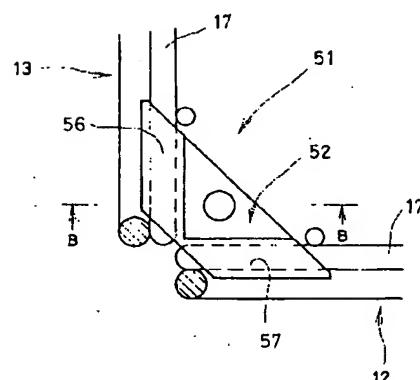
【図6】



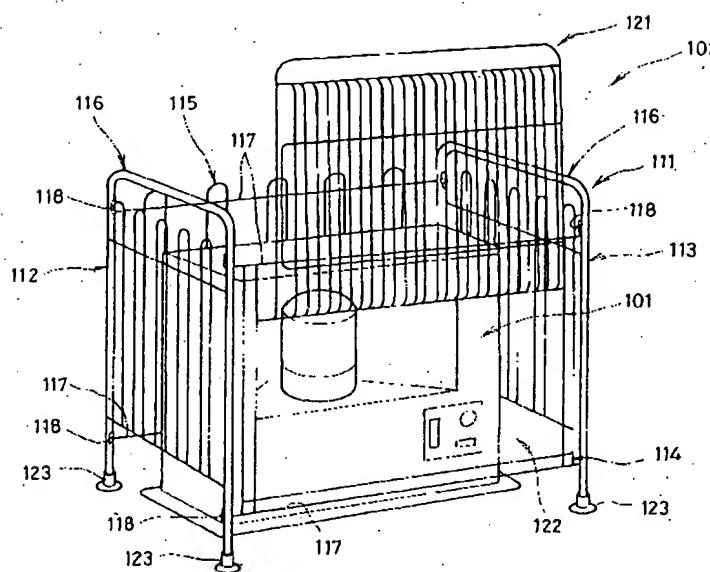
【図7】



【図8】



【図10】



【考案の詳細な説明】**【0001】****【考案の属する技術分野】**

本考案は、ストーブを包囲するように配設されるストーブガードに関する。

【0002】**【従来の技術】**

従来、室内に石油ストーブを配置する際には、図10に示すように、石油ストーブ101を包囲するようにストーブガード102を配設して安全性を確保していた（実開昭63-5303号公報参照）。

【0003】

このストーブガード102は、前記石油ストーブ101の外周部に配置される周壁111からなり、該周壁111は、左右側面パネル112、113と、両側面パネル112、113に連結された前後面パネル114、115とにより構成されている。前記両側面パネル112、113の外周縁は、逆U字状の支柱116、116により形成されており、この支柱116は屈曲形成されたパイプ材からなる。また、前記前後面パネル114、115は、その上縁及び下縁に連結棒117、・・・が設けられており、この連結棒117の両端部が前記両側面パネル112、113の支柱116、116に蝶ナット118、・・・によって固定され、前記周壁111が形成されている。

【0004】

前記前面パネル114には、扉121が昇降自在に設けられており、当該前面パネル114に形成された操作用開口部122を開閉できるように構成されている。そして、前記両側面パネル112、113の外周縁を形成するとともに床面に当接される前記各支柱116、116の下端には、キャップ123、・・・が嵌着されており、床面への傷つき及びストーブガード102の横滑りを防止できるように構成されている。

【0005】**【考案が解決しようとする課題】**

しかしながら、前述したストーブガード102を組み立てる際には、左右側面

パネル112, 113と前面又は後面パネル114, 115とを同時に起立させた状態を維持しつつ、前後面パネル114, 115の連結棒117, ...を蝶ナット118, ...によって各側面パネル112, 113の支柱116, 116に固定する必要があった。このため、固定される各パネル112~115の起立状態の保持と、蝶ナット118, ...による締結作業とを同時に行わなければならず、組立に苦労を要した。

【0006】

本考案は、このような従来の課題に鑑みてなされたものであり、組み立てが容易なストーブガードを提供することを目的とする。

【0007】

【課題を解決するための手段】

前記課題を解決するために本考案の請求項1のストーブガードにあっては、ストーブを包囲する周壁が複数のパネル材により構成され、隣接したパネル材同士が連結部材により連結されてなるストーブガードにおいて、前記各パネル材の両側縁に、下方へ延出する脚部をそれぞれ形成するとともに、隣接するパネル材の側縁同士を近接して配置した状態で一方のパネル材の脚部下端が挿入される有底の第1挿入孔及び他方のパネル材の脚部下端が挿入される有底の第2挿入孔が形成された脚キャップを備えてなる。

【0008】

すなわち、周壁を形成する各パネル材を連結してストーブガードを組み立てる際には、先ず、第1及び第2挿入孔が形成された脚キャップを、各挿入孔が上方へ開口した状態で配置する。次に、隣接して配設される一方のパネル材の側縁より延出した脚部を、前記脚キャップの第1挿入孔へ挿入するとともに、他方のパネル材より延出した脚部を、前記脚キャップの第2挿入孔へ挿入する。これにより、前記両パネル材は、その側縁同士が近接した状態に維持されるとともに、両パネル材に角度を付けることにより自立させることができる。そして、自立状態にある両パネル材は、所定の角度に保持され、連結部材によって連結される。

【0009】

また、本考案の請求項2のストーブガードにおいては、前記各パネル材を、横

方向に延設された線状部材からなる複数の横桟部と、各横桟部に接合され、該横桟部の延在方向に離間して複数並設された線状部材からなる縦桟部により構成する一方、前記連結部材を、隣接した前記各パネル材の角部に配置された状態で両パネル材の横桟部を上下より挟持する台形板状に形成された一対の第1及び第2挟持板により構成し、一方の挟持板にネジが挿通される挿通穴を形成し、かつ他方の挟持板に前記挿通穴に挿通された前記ネジが螺入される螺入部を形成するとともに、台形板状に形成された両挟持板の斜辺部に、前記横桟部を位置決めする溝を形成した。

【0010】

すなわち、前記脚キャップによって安定した自立状態が保持されるとともに、側縁が近接した状態に維持されたパネル材同士を連結する際には、第1及び第2挟持板からなる連結部材を隣接したパネル材の角部に配置し、前記各挟持板を、両パネル材の横桟部の上部及び下部に配置する。そして、一方の挟持板に形成された挿通穴にネジを挿通するとともに、このネジを、他方の挟持板に形成された螺入部へ螺入し、前記両パネル材の横桟部を両挟持板で挟持した状態で固定する。このとき、前記両挟持板は、台形板状に形成されており、両パネル材の側縁への干渉が防止される。また、台形板状に形成された両挟持板の斜辺部には、前記両横桟部を位置決めする溝が形成されており、前記横桟部は、前記両挟持板の両溝に内嵌された状態で保持される。

【0011】

また、本考案の請求項3のストーブガードにおいては、前記パネル材を、前記周壁の前面を形成する前面パネルと、該前面パネルの左側縁に接続される左側面パネルと、前記前面パネルの右側縁に接続される右側面パネルと、前記両側面パネルの後縁に接続される後面パネルとにより構成し、各パネルを、横方向に延設された線状部材からなる複数の横桟部と、各横桟部に接合され、該横桟部の延在方向に離間して複数並設された線状部材からなる縦桟部により構成する一方、前記連結部材を、隣接した前記各パネルの角部に配置された状態で両パネルの横桟部を上下より挟持する台形板状に形成された一対の第1及び第2挟持板により構成し、一方の挟持板にネジが挿通される挿通穴を形成し、かつ他方の挟持板に

前記挿通穴に挿通された前記ネジが螺入される螺入部を形成するとともに、台形板状に形成された両挟持板の斜辺部に、前記横桟部を位置決めする溝を形成した

【0012】

すなわち、請求項2の場合と同様に、前記脚キャップによって安定した自立状態が保持され、かつ側縁が近接した状態に維持されたパネル同士を連結する際には、第1及び第2挟持板からなる連結部材を隣接したパネルの角部に配置し、前記各挟持板を、両パネルの横桟部の上下に配置する。そして、一方の挟持板に形成された挿通穴にネジを挿通し、このネジを、他方の挟持板に形成された螺入部へ螺入して前記両パネルの横桟部を両挟持板で挟持した状態で固定する。このとき、前記両挟持板は、台形板状に形成されており、両パネルの側縁への干渉が前述と同様に防止される。また、台形板状に形成された両挟持板の斜辺部には、前記両横桟部を位置決めする溝が形成されており、前記横桟部は、前記両挟持板の両溝に内嵌された状態で保持される。

【0013】

【考案の実施の形態】

以下、本考案の一実施の形態を図にしたがって説明する。図1は、本実施の形態に係るストーブガード1を示す図であり、室内に配置された石油ストーブ2を包囲し、石油ストーブ2の周囲部に所定の空間を形成して安全性を確保した状態が示されている。

【0014】

このストーブガード1は、前記石油ストーブ2の外周部に配置される周壁11を備えてなり、該周壁11は、前面を形成するパネル材としての前面パネル12と、該前面パネル12の左側縁に接続される左側面パネル13と、前記前面パネル12の右側縁に接続される右側面パネル14と、前記両側面パネル13、14の後縁に接続される後面パネル15とにより構成されている。各パネル12～15は、下方へ開口したコ字状の外枠16を備えた矩形状に形成されており、その外枠16内には、上段、中段及び下段の三カ所に横桟部17、18、19が延設されている。また、上段の横桟部17と下段の横桟部19との間には、複数の縦

桟部21, が横桟部17~19の延在方向に離間して並設されており、前記外枠16及び前記縦横桟部17~19, 21, は、エポキシ粉体塗装された鉄線からなる線状部材により形成されている。これにより、各パネル12~15には、石油ストーブ2からの熱を通過させる網目が確保されている。

【0015】

前記前面パネル12の中央部には、下段の横桟部19と中段の横桟部18との間に石油ストーブ操作用の操作用開口部31が設けられており、該操作用開口部31は、当該前面パネル12に昇降自在に支持された扉32によって開閉自在に閉鎖されている（操作用開口部31が閉鎖された状態のみ図示）。そして、前記各パネル12~15の外枠16, は、その端部が下段の横桟部19より下方へ延出する長さ寸法に設定されており、各パネル12~15の両側縁には、下段の横桟部19より下方へ延出した脚部33, が形成されている。

【0016】

前記各パネル12~15における隣接したパネル、具体的に図2に示すように、前面パネル12及び左側面パネル13における近接した両脚部33, 33の下端には、床面41への傷つき及びストーブガード1の横滑りを防止する脚キャップ42が嵌着されている。該脚キャップ42は、図3に示すように、ゴムにより形成されており、床面41に面接される橢円形の底部43と、該底部43より上方へ突出した突出部44とからなる。該突出部44には、上方へ開口するした有底の第1及び第2挿入孔45, 46が形成されており、図2に示したように、隣接した前面パネル12及び左側面パネル13の側縁同士を近接して配置した状態で、前面パネル12の脚部33下端を第1挿入孔45へ挿入し、かつ左側面パネル13の脚部33下端を第2挿入孔46へ挿入できるように構成されている。前記両挿入孔45, 46は、図4にも示すように、その内径寸法が下方へ向かうに従って縮径するように形成されており、前記各脚部33, 33の挿入を容易とする一方、挿入された脚部33, 33の不用意な抜けが防止されるように構成されている。

【0017】

また、隣接したパネル同士、具体的に図5に示すように、前面パネル12と左

側面パネル13とは、連結部材51により連結されている。該連結部材51は、前面パネル12と左側面パネル13との角部に配置された状態で、両パネル12, 13の下段の横桟部19, 19(図2参照)及び上段の横桟部17, 17(図5参照)を上下より挟持する一対の第1挟持板としての上部挟持板52と、第2挟持板である下部挟持板53により構成されている。前記上部挟持板52は、図6に示すように、台形板状に形成されており、その中央部には、ネジ54(図5参照)が挿通される挿通穴55が形成されている。この台形板状に形成された上部挟持板52の斜辺部には、前記各横桟部17, 17, 19, 19を位置決めする上面側へ膨出した第1及び第2上部溝56, 57が直交方向に延設されている。

【0018】

前記下部挟持板53も、図7に示すように、台形板状に形成されており、その中央部には、前記挿通穴55に挿通されたネジ54が螺入される螺入部61が形成されている。この螺入部61は、下部挟持板53に開設された円形穴62と下部挟持板53の裏面に溶着されたウエルドナット63により構成されている。この台形板状に形成された下部挟持板53の斜辺部にも、前記各横桟部17, 17, 19, 19を位置決めする下面側へ膨出した第1及び第2下部溝64, 65が直交方向に延設されており、図8及び図9に示すように、両挟持板52, 53が前面パネル12と左側面パネル13との角部に配置され、両パネル12, 13の上段の横桟部17, 17を上下から挟持した状態で、左側面パネル13の横桟部17が上部挟持板52の第1上部溝56と下部挟持板53の第1下部溝64との間に内嵌された状態で保持されるとともに、前面パネル12の横桟部17が上部挟持板52の第2上部溝57と下部挟持板53の第2下部溝65との間に内嵌された状態で保持されるように構成されている。

【0019】

以上の構成からなる本実施の形態において、周壁11を形成する各パネル12～15を連結してストープガード1を組み立てる際には、先ず、第1及び第2挿入孔45, 46が形成された脚キャップ42を、各挿入孔45, 46が上方へ開口した状態で床面41に配置する。そして、隣接して配設される一方のパネル、

具体的には、図2に示したように、前面パネル12の側縁より延出した脚部33を、前記脚キャップ42の第1挿入孔45へ挿入するとともに、左側面パネル13より延出した脚部33を、前記脚キャップ42の第2挿入孔46へ挿入する。これにより、前記両パネル12、13は、その側縁同士が近接した状態に維持されるとともに、両パネル12、13に角度を持たせることによって自立させることができる。

【0020】

このため、連結部材51を用いた両パネル12、13の連結作業を両手で行うことができる。前面パネル12と左側面パネル13とを一方の手で起立させた状態に維持しつつ、他方の手で両パネル12、13の連結作業を行わなければならぬ従来と比較して、組み立て作業を容易に行うことができる。そして、各パネル12、13の両側縁より下方へ延出した脚部33、33のそれぞれに個別に脚キャップを嵌着する場合と比較して、脚キャップ42の取付作業の簡素化を図ることができるとともに、製造コストを抑えることができる。

【0021】

次に、前記脚キャップ42によって安定した自立状態が保持されるとともに、側縁が近接した状態に維持された両パネル12、13同士を連結する際には、図2及び図5に示したように、上部及び下部挟持板52、53からなる連結部材51を隣接した両パネル12、13の角部の内側に配置し、前記各挟持板52、53を、両パネル12、13の各横桟部17、19の上下に配置する。そして、上部挟持板52に形成された挿通穴55にネジ54を挿通するとともに、このネジ54を、下部挟持板53の螺入部61へ螺入し、前記両パネル12、13の横桟部17、17、19、19を両挟持板12、13で挟持した状態で固定する。このとき、前記両挟持板52、53は、台形板状に形成されており、両パネル12、13の側縁を形成する外枠16、16への干渉を回避することができる。これにより両パネル12、13を、その角部の内側にて固定連結することができる。

【0022】

また、台形板状に形成された両挟持板52、53の斜辺部には、前記各横桟部17、17、19、19を位置決めする各溝56、57、64、65が形成され

ており、前記横桟部17, 17, 19, 19を、図8及び図9に示したように（上段の横桟17, 17同士を連結した部位のみ図示）、前記両挟持板52, 53の各溝56, 57, 64, 65に内嵌した状態で保持することができる。これにより、隣接した両パネル12, 13を直角に維持した状態で、強固に固定することができる。そして、各パネル12～15を前記脚キャップ42及び連結部材51で順次連結することによって、前面パネル12と左側面パネル13と右側面パネル14と後面パネル15とかなる矩形状の周壁11を形成することができる。

【0023】

なお、本実施の形態にあっては、前面パネル12と左側面パネル13との連結部分のみを拡大図を用いて説明したが、他の隣接するパネル12～15における連結部分も、前述と同様に、脚キャップ42と一組の連結部材51, 51とによって連結されている。

【0024】

また、本実施の形態にあっては、周壁11が四枚のパネル12～15によって四角形に形成されたストーブガード1を例に挙げて説明したが、これに限定されるものでは無く、これより少數あるいは多数のパネルによって周壁11を形成しても良い。

【0025】

【考案の効果】

以上説明したように、本考案の請求項1のストーブガードにあっては、隣接したパネル材より延出した各脚部を、脚キャップの第1及び第2挿入孔へ挿入することで、両パネル材を、その側縁同士が近接した状態に維持することができるとともに、両パネル材に角度を持たせることにより自立させることができる。これにより、連結部材を用いた両パネル材の連結作業を両手で行うことができるので、左右側面パネルと前面又は後面パネルとを一方の手で起立させた状態に維持しつつ、他方の手で各パネルの連結作業を行わなければならなかつた従来と比較して、組み立て作業を容易に行うことができる。そして、各パネル材の両側縁より下方へ延出した脚部のそれぞれに個別に脚キャップを嵌着する場合と比較して、

脚キャップの取付作業の簡素化を図ることができるとともに、製造コストを抑え
することができる。

【0026】

また、本考案の請求項2のストープガードにおいては、前述した脚キャップにより隣接したパネル同士を安定して自立させた後、第1及び第2挟持板からなる連結部材を隣接したパネル材の角部に配置し、両パネル材の横桟部を、前記両挟持板で上下より挟持した状態で連結する。このとき、前記両挟持板は、台形板状に形成されおり、両パネル材の側縁への干渉を回避することができる。これにより両パネルを、その角部の内側にて固定することができる。また、台形板状に形成された両挟持板の斜辺部には、前記横桟部を位置決めする溝が形成され、前記横桟部を、前記両挟持板の両溝に内嵌した状態で保持することができる。これにより、隣接したパネル材を所定の角度に維持した状態で、強固に固定することができる。

【0027】

さらに、本考案の請求項3のストープガードでは、請求項2の場合と同様に、脚キャップにより隣接したパネル同士を安定して自立させた後、第1及び第2挟持板からなる連結部材を隣接したパネルの角部に配置し、両パネルの横桟部を、前記両挟持板で上下より挟持した状態で連結する。このとき、両パネルの側縁への前記両挟持板への干渉を回避することができるので、前述と同様に、両パネルを、その角部の内側にて固定することができる。また、前記横桟部を、請求項2の場合と同様に、前記両挟持板の両溝に内嵌した状態で保持することができるので、隣接したパネルを所定の角度に維持した状態で、強固に固定することができる。そして、各パネルを前記脚キャップ及び連結部材で順次連結することによって、前面パネルと左側面パネルと右側面パネルと後面パネルとからなる矩形状の周壁を形成することができる。